

木質系素地に対する塗装仕様の選び方 及び木材保護塗料の標準化

Selection Methods of Coating Specifications for Wooden Substrate and Standardization of Wood Protective Coating Materials

本橋 健司

1. はじめに

日本建築学会では「建築工事標準仕様書・同解説」(JASS)を制定・改定している。JASS18は塗装工事であるが、JASSは絶版になったものを含めると全部で30あり、我が国における建築工事の施工標準として受け入れられ、建築物の質的向上と合理化に貢献してきたと考える。JASSは昭和28年に初版が発刊されたが、当時、日本建築学会材料施工規準委員会の下元連委員長がJASS発刊に際して以下のように述べている。

「標準仕様書を作成することは、施工標準を決めようとするのであります。即ち合理的で経済的な施工の一定水準を定め、これが普遍化を期待し、それによって一般建築物の質の向上を図ろうとするのが、その目的であります。先ず、その根本方針としては、技術の進歩に即応し、新材料の利用、規格の尊重、新決定用語の採用によって、時代に適合し、しかも飛躍に過ぎることのない様、官庁と謂わず、民間と謂わず、建築界全体を通じて使用し得られる仕様書の決定版を得ようとするところに、目標を置いたのであります。」

2012年6月4日受付
MOTOHASHI Kenji

JASS発刊の目的やその考え方が理解できる。JASS18塗装工事は建築塗装工事の施工標準を示したもので、現在は2006年に改定されたものが最新版であり、現在、新しい改定版を作成中である。JASS18(2006年改定版)では木質系素地に対する13種類の塗装仕様を示しており、これらの塗装仕様が適材適所に適用されることが重要である。

本文では、建築設計者が適切な塗装を選択するための注意事項について解説する。また、利用が拡大している木材保護塗料の日本建築学会材料規格について解説する。

2. 木質系素地に対する塗装仕様の選び方

JASS18における13種類の塗装仕様の選び方は表1のように示される。先ず、外部塗装か、内部塗装かによって塗装仕様が選別される。

外部塗装の場合には、塗装仕様は5種類であり、木材の質感を生かした半透明の仕上がりを期待できる塗装仕様として「木材保護塗料塗り」と「ピグメントステイン塗り」が挙げられる。木材の質感が失われるエナメル塗りとして「合成樹脂エマルジョンペイント塗り」、「合成樹脂調合ペイント塗り」及び比較的高級な「フタル酸樹脂エナメル塗り」が選択できる。

また、外部塗装において透明塗装仕様は推奨されていない。透明塗装を外部に適用した場合は、劣化が比較的早期に発生する事、補修塗装